

Global Breast Cancer Conference 2011 (GBCC2011)

淡河恵津世

2011年10月6～8日の間、GBCCに出席のため、韓国のソウルへ行って参りました。この学会は、アジア地区の乳癌学会でソウルで開催されます。久留米からの渡航メンバーは、乳腺班の岩隈先生と大塚先生、久留米第一病院外科の田中真紀先生と山口先生、そして私でした。現地では、北九州医療センター院長の光山先生と熊本市民病院の西村先生など九州の乳腺外科の諸先生方も一緒でした。2012年6月の乳癌学会が熊本で開催されるので、そのための準備も兼ねて視察されていたようです。学会場は Sheraton Grande Walkerhill Seoul でしたが、ホテルまでは久しぶりの一人旅でしたので、なかなかの珍道中でした。福岡国際空港から仁川空港まで約1時間で到着後、リムジンバス乗場を探し、読めないハングル文字の中に英語を探し、リムジンバスの係の人やバスの運転手さんから話しかけられても「???'で、それでも何とかホテルに着くので、おもしろいものです。出発前に研修でまわってきた認定看護師さんから「ファジャンシル オディエヨ?」(トイレはどこですか?)」「ヌル ジュセヨ (水ください)」を覚えてもらい、温先生から「カムサハムニダ (ありがとう)」「アンヌンハセヨ (こんにちは)」の発音をチェックしてもらい、飛行機の中で長文のカタカナ・ハングル語を覚えてみたりと無駄な努力をしましたが、結局よく使ったのは、「カムサハムニダ」「アンヌンハセヨ」だけでした(笑)。

特別講演で面白かったのは、日本・韓国・中国の乳癌治療の比較でした。日本と韓国は全乳癌患者数の母数があるのに、中国は多すぎて母数がわからない「∞」という不思議なデータがありました。放射線治療に関する話題は少なかったのですが、化学療法・分子標的療法の話題がやはり多かったようです。



学会場に続くスペースに韓国の有名な(?)画家が描いた絵が飾ってあり、その画家が市民公開講座で講演していました。残念ながら、講演の内容は言葉の問題でわかりませんが、絵は乳癌手術の歴史を思わせるものでしたので、ちょっとご紹介します。



夜は韓国通の第一病院の田中真紀先生に夜店に連れて行ってもらい、ニンニクたっぷりの餃子と韓国 B 級グルメを楽しみ、韓国コスメを大人買いしてしまいました。韓国パワーを感じつつ、帰りも 1 人リムジンに乗り、運転手さんに話しかけられて困りながらも無事帰国した次第です。

勉強もさることながら、このような貴重な経験をさせていただいたことに心より感謝いたします。